ゴーヤーの育て方 Q & A

植えつけ前

Q 苗をいくつ植えれば良いのかわかりません。

A 例えば、幅180cmのカーテンをつくる場合、大きめのプランター 1つに苗2～3本でよいでしょう。ただし、環境によって成長の度合は異なりますので目安としてお考えください。

Q 1つのプランターに複数の種類を植えてもいい？

A 一般に、ゴーヤーやヘチマなどウリ科の植物どうしを一緒に植えることは良くないと言われています。一方、ゴーヤーと一緒にネギを植えるとお互いが良好に生育するということもあるようです。異なる植物を同じプランターで育てたい場合には、園芸店などで相談することをお勧めします。

育成中

Q 肥料(追肥)はどうあげればいい？

A 花が咲いて実ができる頃から与えます。固形肥料の場合は1ヶ月を目安に1回、液体肥料の場合は効果が持続しないため1週間を目安に1回程度与えてください。肥料によって異なりますので用法を確認しましょう。

Q 葉が黄色く(または茶色く)なります。

A 下の方の葉だけが黄色くなるのは、ある程度は仕方のないことです。ただし、全体的に広がっている場合は、日照不足・栄養不足(特に窒素N)などが考えられます。前項を参考に肥料を与えましょう。
また、葉は黄色いが葉脈だけは濃い緑色をしているような場合は、マグネシウム(Mg)不足が考えられます。Mgを含んだ液体肥料を散布するといいでしょう。

Q 葉が少なくカーテンになりません。

A 摘心が大切です。つるは何もしないと上へ上へと伸びていきます。横へ広げていくには、途中で親づるの先をハサミで切ります。次第に子づる・孫づるが伸びてきますので全体的に広がるように導きましょう。8ページを参考に行ないましょう。

Q 実が大きくなりません。

A カーテンとしては葉を茂らすことを優先したいところですが、実も味わいたいところです。
栄養分としては、リン酸(P)が多く含まれた肥料を与えるとよいでしょう。
なお、ゴーヤーの品種によっては、あまり大きくならないものもありますので注意しましょう。

雌花には、花のつけ根にゴーヤーの赤ちゃんがつきますので簡単に見分けることができます。

Q 花がポロポロ落ちてしまいます。

A ゴーヤーには雄花と雌花があり、通常は雄花が先に多く咲き始めます。その後、雌花が咲き始め結実します。先に咲いた雄花はポロポロと落ちてしまいますが、とくに問題ありません。

Q 実がつきません。

A “摘心”と“受粉”がポイントです。
ゴーヤーは摘心(8ページ参照)して成長した子づるや孫づるに実がなると言われています。
また、高層階のベランダなどで受粉を助けてくれる虫などが来ない場合は、雄花をとって雌花に押し付けて受粉させるとよいでしょう。

▲雄花
◀雌花

その他

Q できた実から種を取って来年育てたい。どうすればいい？

A 実が完熟して(オレンジ色になって)から種を取り出します。種を水でよく洗い、乾燥させた後、冷暗所で保存します。ただし、現在市販されている種や苗は良く育つように掛け合わせて作られたもので、遺伝子的に次の世代は親の世代とは異なる性質が現れることがわかっています。

Q 終わったら土はどうすればいい？

A カーテンを育て終わった後の土は、他の資材(プランターやネットなど)と一緒に翌年も使いましょう。ただし、土は栄養分が残っていませんし、根やゴミ、雑菌などが含まれていますので、ビニール袋などに入れて保管しておきましょう。土の再生方法は6ページ参照してください。

Q 成功の秘訣・ポイントは？

A 第一は“土”です。次に“ネット張り”と“よく観察すること”が大切です。
植物は、土から栄養分を吸収し、大きく育ちます。栄養豊富でふかふかな土を準備することが大切です。
ネットは、つるが這っていく時の支えとなるものですので、しっかりピンと張るようにしましょう。
植物は話せません。植物が発するSOSのサインを見逃さず、できるだけ毎日見守ってあげましょう。

連作障害とは…
同じ土で同じ植物を作り続けると、土の中の養分が不足したり病原菌が多くなったりして植物の生育がわるくなる現象です。土の殺菌・消毒、養分補給などの土壌改良を施したり、土を全面的に入れ替えたりする必要があります。

＜ Special Thanks ＞
沖縄料理研究家 高山厚子、高島第五小学校教諭 菊本るり子、
緑のカーテンコンテスト受賞者：泉谷澄子・鈴木栄里・安見栄之輔・
凸版印刷株式会社板橋工場・緑のカーテン推進の会、
はすねロータス商店会、NPO法人 緑のカーテン応援団(敬称略)

＜参考文献＞
『育てて楽しむはじめての緑のカーテン』(家の光協会)
『緑のカーテンの育て方・楽しみ方』(創森社)

＜編集・印刷＞
葵コーポレーション株式会社